◇比較民俗研究会の記録（2003.5～2007.2）

・**第57回**　2003.5.26　川野明正（東京理科大学・講師）「中国西南地方の蠱毒信仰について」

・**第58回**　2003.6.23　陶　立璠（中国・中央民族大学教授　民俗文化研究センター主任）「中国民間故事の類型化と日中比較 - 非文字資料の体系化及びその比較 - 」

・**第59回**　2003.7.28　D.O.朝克（中国社会科学院民族研究所研究員）「鄂温克（エベンキ）族の宗教・言語文化 - アイヌ文化との比較を視野に - 」

・**第60回**　2003.11.25　前田憲二（映画監督）「日本の祭りからみえた渡来文化」（前田監督解説による『土俗の乱声』も上映）

・**第61回**　2003.12.22　舟田詠子（東海大学講師）「オーストリア，マリア・ルカウ村のクリスマスのパンと菓子」（研究会後，舟田先生による手作り菓子を囲んでクリスマスパーティーを開催）

・**第62回**　2004.4.19　萩原秀三郎（日本民俗学会会員）「オニとカミ - 日本精神史の起点 - 」

・**第63回**　2004.10.23　片　茂永（愛知大学教授）「初八日と花祭り - 固有非固有並存 - 」

・**第64回**　2004.11.29　鄧　敏文（中国社会科学院研究員）「中国貴州省侗族の他界観念」

・**第65回**　2004.12.20　志賀市子（茨城キリスト教大学文学部助教授）「中国のこっくりさん - 近代中国のシャーマニズムと道教 - 」

・**第66回**　2005.3.15　陶　立璠（中国・中央民族大学教授　民俗文化研究センター主任）「中国民俗学の現状 - 中国民族民間文芸集成の完成とその意義 - 」

・**第67回**　2006.1.30　星合亘子（愛知大学国際コミュニケーション研究科・修士課程）「社会変動と‘年越し’の変化 - 旧正月・新正月・クリスマス　その連続性と非連続性 - 」
・星野　紘（東京文化財研究所名誉研究員）「熊祭りにみる語り物のはじまりについて」

・**第68回**　2006.2.23　佐藤典子（東京大学医学系研究科客員研究員）「〈家族〉のあり方と少子化について - 日本とフランスの比較から - 」

・**第69回**　2006.4.24　余　志清（筑波大学外国人研究者）「葬送儀礼にみる中国プイ族の『漢化』の一側面」

・**第70回**　2006.5.29　蔡　文高（神奈川大学歴史民俗資料学研究科助教授）「漢族の名づけと民俗信仰」

・**第71回**　2006.7.3　植松明石（民俗文化研究所代表）「台湾漢族の墓 - 祀る者と祀られる者 - 」

・**第72回**　2006.7.24　中野　泰（筑波大学大学院人文社会科学研究科講師）「韓国漁村の現在 - 東海岸の活魚販売戦略を中心に - 」

・**第73回**　2006.10.5　劉　暁春（中山大学中国非物質文化遺産研究センター）「三僚の風水文化」

・**第74回**　2006.10.30　浜　雄亮（慶応義塾大

学大学院社会学研究科　社会学専攻）「病いの経験と実践 - 1型糖尿病者を事例として - 」

・**第75回**　2006.11.20　尹　紹亭（雲南大学人類学系教授）「文化多様性の保護と伝承 - 雲南の民族文化生態村 - 」

・**第76回**　2006.11.27　木下直之（東京大学文化資源学研究室教授）「広場に彫刻を置く行為について」

・**第77回**　2006.12.11　叶　涛（山東大学文史哲研究院教授・同民族学研究所所長）「中国泰山信仰 - 泰山香社を中心にして - 」

・**第78回**　2007.1.22　陳　競（中国中山大学人類学研究科・神奈川大学歴史民俗資料学研究科研究員）「高齢化都市社会のコミュニティーづくり―川崎の福祉NPO活動の事例を通して―」

・國弘暁子（神奈川大学COEプログラムPD）「人類文化における性とジェンダーの捉えかたに見る普遍性と特殊性　―インド，ブラジル，日本文化の三角測量に向けての試論」

・**第79回**　2007.2.19　渡邊欣雄（首都大学東京人文科学研究科教授）「文化仮構論」

新刊紹介

桂　小蘭　著
『古代中国の犬文化―食用と祭祀を中心に―』

人と犬の長い付き合いは，犬の人糞食などスカベンジャー（清掃屋）の関係から始まったことを，学生時代，故国分直一先生の外書講読で，F・E・ゾイナー『家畜の歴史』を読んで知った。ペットとして人間扱いされる現代社会では，犬の肉を食すなど言外であると顔をしかめる人もいるが，少し以前まで日本でも犬の肉，特に赤い犬の肉は体が温まると冬場食べる地方もあった。日本における人と犬の交渉史は一例を挙げても，縄文時代の犬葬から，生類憐みの令，犬卒塔婆まで，考古・歴史・民俗学の分野だけみてもさまざま取り上げられてきた。殷墟の犬の殉葬，ヤオ族・ショオ族に認められる犬祖神話など，犬文化に関する中国方面の総合的，体系的な著作が長年の待たれる中，大阪大学に提出された著者の博士請求論文が公刊された。

古代中国の犬肉食に焦点を当てた本書の構成は，序章　東西における犬のイメージ，第一篇：犬肉の食用　第一章　古代の祭祀儀礼と犬食の習俗　第二章　陰陽五行と犬食の習俗　第三章　古代中国における犬食の習俗　第二編：犬による祭祀　第一章　犬と祭祀　第二章　犬と鬼やらい　第三篇：犬文化の衰退　第一章　中古時代以降における犬文化の変容　終章の構成をとり，巻末には主要参考文献，索引をつけた丁寧な本作りとなっている。中国古文献の博捜と，その検証はさすがに中国人学徒の面目躍如である。

古代中国における犬肉の食習慣は，陰陽五行思想，忠君，敬老，養生，等級制度という中国独特の礼文化に根ざした食文化，食の思想であると結論するが，著者も指摘するように，古代以降の北方遊牧民文化の影響，仏教の不殺生思想との関係などを視野に入れた，現代に至る中国の犬食文化の体系化が今後待たれる。　（佐野賢治）

A5判　402頁　大阪大学出版会
2005年2月刊　6000円